

スターゼン 2023 年 3 月期 決算説明会 質疑応答 2023 年 5 月 29 日

Q.1 今後 3 年間の設備投資時にどのような資金調達を行う計画か。

設備投資の項目、時期について教えてほしい。

- A.1 自己資本を充当することを考えているが、賄えない部分は、その時の環境に応じた、デッドファイナンスでの調達を考えている。

設備投資の内訳は中期経営計画で開示している通り、「海外事業の積極展開」で 120 億円、「国内事業の効率化」で 110 億円、「高付加価値商品の取組み」で 60 億円、「DX、業務プロセス改革」で 50 億円、「維持更新投資」で 60 億円を予定。

投資時期については、前後する可能性があるため確定はしていない。

Q.2 2023 年 3 月期に好調だった国産食肉の販売動向について、今後の予測を教えてください。

- A.2 国産食肉は生産コストの上昇により、相場は高値推移の見込みである一方で、前期からの輸入食肉の調達環境の不透明さから、需要面では今期も引き続き堅調に推移すると予測。

Q.3 24 年の業績予想で、食肉需要の高まりによる仕入れ価格の上昇とあるが、仕入れ価格が以前と比べてどれくらい上がっているといった話や、他国に比べて買い負けてしまう状況などがあるのか。

- A.3 輸入牛肉、タン、ハラミなどの仕入れ価格が前年比 1～2 割程度上昇とみている。海外の調達環境は非常に不透明であることから、一部買い負けという傾向も見られるが、当社としては、お客様のニーズを聞き取ってしっかりと商品を確認していきたい。

Q.4 新中計の国内事業改革について、加工食品の NB 構成比率向上の成功例として示されているブランドはなにか。

- A.4 ふっくらやわらかハンバーグ、チーズインハンバーグという商品が中心。

Q.5 2024 年 3 月期の売上予想で「世界的な食肉需要の高まり」の割に増収率が低い、どのような前提があるか。

- A.5 北米産牛肉の生産数量が減少し確保しづらいこと。また、輸入する際にはコストアップが想定され国内で販売しづらいことなどを前提としている。

Q.6 2026 年 3 月期に向け、ROE・ROIC・自己資本比率が低下する要因はなにか。

A.6 400 億円の投資により、投下資本が増加し、減価償却費と負担割合が増加するため一時的に ROE や ROIC が低下する見込み。ただし、将来の成長に資する先行投資であり、その投資効果が現れて ROE や ROIC が上がると考えている。

Q.7 輸出比率について、現状と今後の目標数値を教えてください。

A.7 当社の売上高に占める輸出の比率については公表を差し控えるが、2019 年 3 月期を 100 とした場合、2023 年 3 月期は 215%に伸びている。また、日本から輸出されている牛肉の内約 10%のシェアを占めている認識。中国を始め、先の状況が見えない環境にあるが、早期に 15%位のシェアまで伸ばすことを目標としている。